

築23年 自邸を設計  
伊波米次さん宅

建築士の伊波米次さん(56)が、読谷村に自邸を建てたのは23年前。建物の内外ともコンクリート打ち放しの3階建てで、内部もすっきりとした造りだ。子どもの成長と共に室内の使い方を柔軟に変え、緑も増やして、年月をへて味わいのある住まいになっている。

伊波さん宅は新築当時、夫、長女、長男の4人で住んでいた。間取りは1階が事務所、2階がLDKや個室、3階は主寝室や子ども室だった。新築して5年後に次女が生まれ、子どもが大きくなるにつれ、室内の使い方を変えて

きたと、伊波さんは振り返る。「長女は3階の子ども室を、長男と次女は2階の個室を与えていましたが、長男が小学4年になったときに『自分だけの部屋が欲しい』と言い出したんです。それならと、1階の事務所はよそに移して主寝室に、2階個室は次女の部屋に、3階の子ども室は長男の部屋に、主寝室は長女の部屋に充てました」と語る。室内から直接1階に行けるよう、2階ダイニング隣に階段室も増築した。

長女・長男が車を持つころには、庭の一部を駐車場に変えた。「庭が狭くなる分、せめて室内は広く感じられるよう、庭にデッキを造りました。僕が板を張り、妻と長女でペイントしたんですよ」



3階まで背丈を伸ばすシマトネリコ。その足元には、夫妻と長女で手作りしたデッキが張られている

# 事務所移し子ども室確保 緑増やし眺めや外観が豊かに



2階リビングのフィックス窓から、シマトネリコを眺める伊波さん。「家庭訪問のときは、先生方をここに招いていました」



23年前(左)と現在の外観。外壁は一度だけ塗装した。緑は伊波さんが手入れをして増やした



1階主寝室、右手奥に見えるのは、2階ダイニングにつながるらせん階段



夫人愛用のシヨルテス製のコンロは新築時、キッチンに組み込んだ

年月がたつにつれ緑が増え、伊波さん宅に潤いを添えている。目隠しで造った花ブロックの壁はツタに覆われ、吹き抜けの庭には、シマトネリコが3階まで背丈を伸ばす。「シマトネリコは『リビングから涼しげな葉の揺れを眺めたい』と植えたのですが、こんなに大きくなるとは想像もしなかった。緑があることで建物が生かされているのを感じます」

物持ちがいいことも伊波家の自慢。キッチンにあるフランス・シヨルテス製のコンロは、夫人が30年前の結婚当時から使っていて現役。23年前に買ったリビングのソファは今、生地を張り替えて長男の家で使われている。

3人の子どもたちは独立し、今は夫婦2人で暮らす。「1階の一部がまだ活用できていないので、どうしようか考え中」と伊波さん。そう話す表情は楽しげだった。(我那覇宗貴)

毎月第2金曜日掲載